

新! 北海道マラソン2022 こう変わる



42.195kmのほぼ半分は東京2020オリンピックのマラソンコースに重なります。2019年大会までは10km過ぎの北8条で左折しましたが、今回は創成川通をそのまま直進し地下鉄北24条駅前を通過します。このルートは2012年大会以来の復活です。

前田森林公園を過ぎて折り返す新川通は直線で片道6.5km。ランナーの精神力を問う北海道マラソンの名物ポイントです。北大を通過したあと、前回まで直進していた道庁赤れんが庁舎前は左折して駅前通へ。ゴールはオリンピックと同じ大通西4丁目になりました。

制限時間は6時間になりました。前回大会より1時間の延長なので、より多くの市民ランナーが完走を目指し挑戦できます。コース変更や6時間化にともないファンランはなくなり、フルマラソンの定員が1万7,000人から2万人に増えました。前回まで先着順だったエントリーは、定員を超えた場合には抽選となります。

- TOPICS 1 **ルート**
東京2020五輪コースをほぼ活用
- TOPICS 2 **制限時間**
5時間⇒6時間に延長!
- TOPICS 3 **フルマラソン定員**
17,000人⇒20,000人
(応募多数の場合は抽選)
※ファンランはありません

新型コロナウイルス対策にガイドライン策定

北海道マラソン2022では、新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐとともに、感染者が発生した場合に迅速な対応を行うことを目的としたガイドラインを定めています。

大会事務局が東京2020オリンピックマラソン競技の運営に携わった経験を生かして、ランナー、観客、大会スタッフ、そしてボランティアのみなさんにも、このガイドラインをもとに様々な対策を講じ、協力をお願いすることになります。

基本的な対策はまず、大会にかかわる全員のマスク着用徹底です。ランナーも競技中以外はマスク着用を必須にします。

大会にかかわるすべての人に大会一週間前から、毎日の体温の測定、咳や熱、味覚異常などの有無をチェックいただき、体温記録活用アプリまたは体調管理チェックシートで提示をしてもらいます。

手指消毒を励行し、大声は出さないよう呼びかけます。ゴミやマスクなどの落とし物は素手では扱わず、 tongなど道具を使って回収します。ランナーのフィニッシュ後には、メダルの手渡しは行わず、計測チップは渡しきりにして回収せず、必要以上の接触や動線の滞留を防ぐようにします。

ワクチン接種も奨励しています。ランナーには参加受付時のワクチン2回以上接種証明の提示、あるいは陰性証明の提示を義務づけます。

沿道対策では、観衆同士の密集の回避やマスクの着用、声を出して応援しないよう呼びかけ、また地元自治体による緊急事態措置、あるいはまん延防止等重点措置がとられている場合は、観戦の自粛を呼びかけます。

ガイドラインは大会ホームページ <https://www.hokkaido-marathon.com/covid19/> で全文が読めます。2月末の状況に基づくもので、感染状況に応じて内容が変更される場合があります。